様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２５ 日現在

機関番号：１３１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2021～2023
課題番号：２１Ｋ００４１３

研究課題名（和文）フランス近代作家と古典人文教養－プルーストにおける教育、読書、創作の軌跡

研究課題名（英文）Proust and Humanities

研究代表者
津森　圭一（Tsumori, Keiichi）

新潟大学・人文社会科学系・教授

研究者番号：７０７２２９０８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,600,000円

研究成果の概要（和文）：マルセル・プルースト（1871-1922）の作品において古代ギリシア・ローマの文学作品を原典とする神話、歴史などのモチーフは頻繁に言及される。しかし作家はホメロスやウェルギリウス等に関してまとまった論考を残すことも、小説中で批評することもなかった。本研究は、断片的にしか言及されないこれらのモチーフの背後にある体系を解明することを目指すものである。さらに、これらのモチーフが風景描写のなかで用いられていることに着目し、従来、絵画や建築との関連で論じられることが多かった風景描写を，テオクリトス、ウェルギリウスなどの作品を模範とした「悦楽境locus amoenus」の伝統の中で再考した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、古代ギリシア・ローマの教養という枠組みが、フランス近代文学において果たしている役割を考察するものである。作家がこれらの教養をいかに受容したかを考察するうえで、学校教育におけるギリシア・ローマ古典文学の位置付けを検討することが必須である。本研究は、広く学校教育における古典作品の位置づけや扱いをめぐる議論につながり得る。

研究成果の概要（英文）：In the works of Marcel Proust (1871-1922), motifs such as mythology and history based on ancient Greek and Roman literature are frequently mentioned. However, the author did not leave any essays on Homer or Virgil, nor did he criticize them in his novel. This research aims to elucidate the system behind these motifs, which are only mentioned in fragments. Furthermore, focusing on the fact that these motifs are used in landscape descriptions, we focused on the use of landscape descriptions, which had been discussed in relation to paintings and architecture, by modeling them on the works of Theocritus, Virgil, and others. reconsidered in the tradition of locus amoenus.

研究分野：ヨーロッパ文学

キーワード：フランス文学　プルースト　古典　教養　神話　庭園　風景

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９，Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

20 世紀初頭のフランスを代表する作家のひとり，マルセル・プルースト（1871-1922）は，作家になる以前に，当時の公的な中等教育と高等教育の受容者であった。当時の教育課程で修得すべきとされたギリシア・ローマの哲学や文学は，作品中で頻繁に言及される。しかし作家プルーストは，ホメロスやウェルギリウス等に関してまとまった論考を残すことも，小説中で批評を行うこともなかった。ボードレールやフロベール等，近代の小説家や詩人については繰り返し批評を行っており，その方面ではすでに研究の蓄積があるいっぽうで，プルーストの作品における古典古代の著作家やその作品をめぐる教養知の体系については十分に検討されて来なかった。

『失われた時を求めて』の登場人物である大学教授ブリショや主人公の年長の友人ブロックは，古典人文教養を滑稽なまでにひけらかす人物として，周囲から失笑を買う。作家がそのような設定を行った必然性はどこにあるのか。古典人文教養が，このような人物を通して諧謔的に提示されているのなら，その根本的な理由を，作家の偶然かつ直接的な経験ではなく，その背後にある文化的要因がどのようなものかを探ることが必要であった。そして，フランス第三共和政下における，ギリシア・ローマの古典人文教養が，マルセル・プルーストをはじめとした 20 世紀前半の作家によっていかに扱われているかを解明することを最終的な目標として掲げた。

２．研究の目的

本研究は，主に 19 世紀末に学校教育を受けた世代に共通する教養のあり方を，具体的な内容の面と制度の面の双方から明らかにすることを目的として据えた。古典人文教養は，『失われた時を求めて』の登場人物像に肉付けされた形で表象されることが多い。つまり，近代文学において古典的な教養が付加的な価値を持つとすれば，これらの教養をいかに咀嚼し，消化し，そしていかに「異化」して再提示するのか。フランス第三共和政下の教育制度を享受した，プルーストと同時代の作家（ジッド，ヴァレリー等，プルーストとは異なる教育的履歴を持つ作家）における古典文学教養のあり方との比較も必要である。

プルーストの主著『失われた時を求めて』におけるギリシア・ローマ古典人文教養の構造を明らかにするために，まずはテクスト上で明示的に言及されるギリシア・ローマ神話の問題にアプローチする。以下 3 テーマを抽出し，①および②の一部については以下に述べる成果論文で考察することができた。②の一部および③については現在準備中の論文で考察する予定である。

①ホメロスからウェルギリウスへ―英雄叙事詩の系譜

プルーストがもっとも頻繁に言及する古典人文教養のモチーフのひとつとして，ホメロス『オデュッセイア』第 11 歌「Nekuia」における，「冥界行き」およびそこから現生への回帰のモチーフがある。この「冥界行き」のテーマは，ウェルギリウスの『アエネーイス』第 6 歌の冥界行きや，オルペウスの冥界行き，さらには『神曲』「地獄篇」における地獄下りのエピソードと混然一体となったモチーフを形成している。このテーマを扱った先行研究としては，ホメロスの影響を限定的に扱ったフレスとレトゥーブロンの論考（*RHLF*，1997 年）があるが，本研究では『アエネーイス』や『神曲』の影響も考察対象にし，さらにはジョン・ラスキンの『プロセルピナ』やアナトール・フランスの『ピエール・ノジエール』等，このモチーフを取り上げた近代作家にも言及しながら，異界訪問のイメージが，どのように芸術創造へと結びついているかを論じる。

②テオクリトスからウェルギリウスへ―田園詩の系譜

田園への憧憬が生み出したジャンルであるパストラルの伝統は，20 世紀初頭の作家にいかに継承されたのか。プルーストにおいては『ジャン・サントゥイユ』や『スワン家のほうへ』に田園風景描写が存在する。従来，絵画や建築，庭園芸術との関連で論じられることが多かったこれらの田園風景描写を，テオクリトスやウェルギリウスに発する *locus amoenus* の伝統を踏まえながら再考する余地はまだ残っている。さらに，プルーストの同時代の作家に目を向けると，アンドレ・ジッドが牧歌の伝統をパロディー化し『パリュード』（1895）を執筆している。また，ヴァレリーは，晩年に『牧歌』の韻文訳を発表している。ウェルギリウスが国家主義的な価値観と結びつけられやすいことに留意しながら，これら同世代の作家の動向にも目を向け，近代フランスにおけるパストラルの受容のあり方を解明する。

③ヘシオドスからウェルギリウスへ―神話体系の理解と応用

プルーストの処女作品集『楽しみと日々』（1896）がヘシオドスの『労働と日々』を意識したタイトルとした真意はどこにあるのか。また，プルーストはいかにして神話の神々の体系について学び，作品中で再構成しているのか。中等教育において，ギリシア・ローマ古典人文教養を確固たるものにしていたプルーストは，小説において，ギリシア・ローマ神話の神々や英雄を自在に援用する。とりわけ登場人物のふるまいを示すための比喩として用いられる事例が多い（例えばゲルマント公爵の尊大さユピテルに喩えられる）が，本研究では，ウェルギリウスの『農耕詩』第 4 歌で，飼っている蜜蜂が全滅して悲しむ牧人アリスタイオスのエピソードをプルーストは

いかに解釈しているか（プルーストはアリスタイオスの母親を，キュレネではなく海の女神テティスと記している）という問題を軸に検討する。

３．研究の方法

具体的に採用した研究の方法を示す。以下の通り，以前の研究課題「プルーストの「庭園芸術」」との接続をはかり，庭園のテーマを軸としながら考察を進めた。18 世紀から 20 世紀の文学作品における庭園描写において，西洋古典文学以来の *locus amoenus* の伝統はいかに引き継がれてきたか，その影響はプルーストの作品にいかに表れているか，という観点から分析を試みた。

西洋文学の植物描写は長い伝統の蓄積のうえに立つ。ギリシア・ローマ神話における庭園を司る神や，花や植物へと変身したニンフや英雄への言及によって，文学作品の中の庭園は，その存在を確かなものにしてきた。アプロディテ，ペルセポネ，フローラ，ケレス，ポモナ，アドニス，プリアポスなどの名への言及は，小説や詩で庭園のイメージを表出させる役割を担っている。つまり，これらの神や英雄の名や，以下に上げる楽園の名が発せられるや否や，読者は楽園をイメージする。ギリシア神話の文脈では英雄たちが死後に送られるとされるエリュシオンの野，ヘスペリデスの園，現実には存在しない理想郷としてのアルカディアなど名も，後世の文学作品で特定のイメージを提供してきた。こうした伝統は，フランス近代文学においていかに引き継がれ，変奏されているのかを考察した。

2021 年に発表した論文（前研究課題「プルーストの「庭園美学」」の成果論文）「ラスキンの庭園美学とプルーストの植物学的詩学」（『STELLA』40 号）において，ラスキンの植物学をテーマとした著作『プロセルピナ』（1872-1876）に言及した。この著作はただ単なる植物の記述にとどまらず，各植物の文化的な背景に着目した神話論となっている。プロセルピナ（ギリシア神話のペルセポネ）は農耕を司る女神であるが，ウェルギリウス『農耕詩』第 4 歌においては，プロセルピナが，エウリュディケに，地上への帰路をたどるオルペウスのあとに着いていくよう命じる。例えばこの場面は，『花咲く乙女たちのかげに』のユディメニルの三本の木の場面の発想源になっている。古代ギリシア・ローマの神話体系，ひいてはギリシア・ローマ古典人文教養が，近代の作家の創作にいかに創意をもたらし続けているか，このような例を収集し，検証しているところである。

４．研究成果

以下の論文において本研究課題の成果の一部を発表することができた。

(1)古典古代の楽園のイメージの転化について以下の論文で検討した。

津森圭一「『失われた時を求めて』におけるパリの風景――暗示とイメージ連鎖の場としての都市公園――」『プルーストと芸術』水声社，2022 年 4 月，267-285 頁

TSUMORI Keiichi, 《 Jardins et parcs proustiens dans À la recherche du temps perdu 》, *Proust, la littérature et les arts*, sous la direction de Kazuyoshi Yoshikawa, avec la collaboration de Masafumi Oguro, Hiroya Sakamoto et Keiichi Tsumori, Paris, H. Champion, novembre 2023, pp. 207-218.

（2）ヴェルサイユ庭園の描写におけるロクス・アモエヌスのイメージの活用について以下の論文で検討した。

津森圭一「プルーストとヴェルサイユ庭園」『STELLA』九州大学フランス語フランス文学研究会，第 42 号，2023 年 12 月，199-221 頁

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 津森 圭一	４．巻 42
２．論文標題 プルーストとヴェルサイユ庭園	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Stella	６．最初と最後の頁 199～221
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15017/7162047	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 TSUMORI Keiichi	４．巻 50
２．論文標題 Jardins et parcs parisiens dans A la recherche du temps perdu	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Proust, la litterature et les arts, sous la direction de Kazuyoshi Yoshikawa	６．最初と最後の頁 207-218
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

１．著者名 津森圭一	４．巻 31
２．論文標題 『失われた時を求めて』の登場人物の庭園愛好――庭とともに人生を歩むシャルリュス男爵――	５．発行年 2022年
３．雑誌名 日本フランス語フランス文学会関東支部論集	６．最初と最後の頁 25-37
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 津森圭一	４．巻 無し
２．論文標題 『失われた時を求めて』におけるパリの風景――暗示とイメージ連鎖の場としての都市公園――	５．発行年 2022年
３．雑誌名 プルーストと芸術（吉川一義編，水声社）	６．最初と最後の頁 267-285
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　2件）

１．発表者名 TSUMORI Keiichi
２．発表標題 L'Horizon du paysage chez Proust
３．学会等名 Proust. Un livre-paysage (Rencontres Internationales Proustiennes d'Illiers-Combray)（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 津森圭一
２．発表標題 プルーストと建築―『失われた時を求めて』における都市景観美の発見
３．学会等名 プルースト―文学と諸芸術―芸術照応の魅惑4（日仏シンポジウム）（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関